

令和7年度 江戸川区立東小岩学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	◎よく考える子 ○思いやりのある子 ○たくましい子		目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	「夢や希望を育てる学び舎としての楽校」 ・子ども自身の夢や希望、子どもにかける家庭や地域の夢や希望を育てる学校 ・子どもにとって通うのが楽しい楽校（学校） ・「厳しく教え 温かく育てる」「信じて接し 愛して育てる」
前年度までの本校の現状	成果	・縦割り班活動や全校での行事等、子どもたち同士のかかわり合いを増やしたことで、豊かな心の教育の増進に繋がった。 ・外部人材との協働学習を実施し、幅広い人材から学ぶことで、子どもたちの興味・関心を高めることができた。	課題	・運動への意欲を向上させ、体力を高める取組を進めること。 ・「誰一人取り残さない」授業改善を推進し、児童が自分の考えを表出する力を高めること。

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価（A～D）		「中間」学校関係者評価（A～D）		「年度末」自己（学校）評価（A～D）		「年度末」学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力向上	授業改善の推進、学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対する学校の組織的な対応による取組の実施・充実	「誰一人取り残さないための学力向上に向けたアクションプラン」の実施・充実 「伝え合って考えを深めることができる児童の育成」を目指す。系統的な指導、話型の提示。	ベーシックドリル診断テスト正答率70%以上 国、区の学力調査におけるCD層36.5%以下 「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり新たな考え方に気付いたりすることができている」の肯定的回答80%以上。	100%		A	全国学力調査における本校児童のCD層の割合は約30%であった。	A	基礎学力を徹底させることは、将来の学習に大いに役立つと思う。					
	読書科の更なる充実	全学年で12時間を本を活用した調べ学習に設定し、探究的な学習を行い、「本を活用した調べ学習コンクール」へ応募する。	「本を活用した調べ学習コンクール」参加率100%	100%		A	「本を活用した調べ学習コンクール」に参加することで、学年に応じて本を活用して調べ学習に親しむことができた。	A	自分で本を探して、読んで調べ経験は大切だと思います。					
	体力向上	「運動意欲の向上」に向けた取組の実施・充実 個に応じた体力向上のための取り組みの実施・充実	・「江戸川っ子なわ跳び出前授業」の実施 ・アスリートを招いての出前授業の実施 ・年3回のなわとびウィークの確実な実施。 ・校庭に体力向上のための取組が日常的にできる器具等の設置。	「運動することが楽しいですか？」に対する肯定的評価80%以上 「体力を高めようとしている」の肯定的回答が80%以上。	90%		A	「運動が好きですか」に対する肯定的な回答は約95%。アスリートを招いての出前授業を全学年で実施した。	A	体力の向上にアスリートの出前授業は大変効果的であると思う。運動が苦手な子ども楽しさを体験できる。				
教育の推進	ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実	特別支援教育コーディネーターが中心になり管理職、心理士、SC、巡回指導教員の連携のもと、特別支援教育を進める。	特別支援打ち合わせを毎月1回実施する。 特別支援研修会を年3回実施する。	70%		B	特別支援打ち合わせを毎月実施し個に応じた指導の充実を図っている。 特支COを中心とした連携が円滑に行われている。	B	子どもファーストの取組で良いと思う。 より良い連携によって小さな問題も見逃さず、共有しながら解決を目指してほしい。					
不登校の充い実め対応	豊かな心の育成	いじめアンケートを実施し、早期発見と早期解決を図る。	週に1回、全職員からの報告を行う。 各学期に1回いじめアンケートを行い、いじめによる不登校を0にする。	100%		A	「いじめ対応研修」を実施し、早期発見、早期解決に向けて情報の共有や記録が適切に行えるように意識を高めている。今後も継続する。	A	いじめは、早期に気付くことで解決できることが多いので今後も取り組みを強化してほしい。					
	L-Gateの活用	L-Gateの児童の実態把握に基づいた指導の推進	毎日の振り返りを担任が確認し、児童の変化を見取り、早期発見につなげる。	70%		B	毎日帰りの会などでL-Gateを通した振り返りを行っている。今後も児童の変化を見逃さないようにしていく。	B	小さなサインを見逃さない取組によってよい状況が続いていくことを願っている。 手軽に利用できる手段は良いと思う。					
学校（園）と地域社会との連携の実現	学校（園）ホームページの充実等	学校ホームページにて情報を発信し、保護者、地域との連携を図る。	週1回以上、学校ホームページの更新を行う。	100%		A	校務分掌や各学年の担当ごとに、学校行事や学習の様子をホームページで発信することができた。（1学期終了時69回更新）	A	HPは「生」の情報をリアルタイムで掲載することが望ましいので今後も期待している。					
	学校関係者評価の充実	学校公開時にアンケートを実施し、授業改善につなげる。 学校評議員会で学校の取り組みへの評価、検討を行う。	保護者アンケートの肯定的意見を80%以上にする。	100%		A	現在まで学校公開や運動会後のアンケートでは90%の肯定的意見をいただいている。	A	学校と保護者が同じ気持ちで取り組んでいる証だと思う。					
教育の特色ある展開	「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施	「学校における働き方改革プラン」に基づき、学校業務の適正化を行う。	月の時間外勤務が45時間を超える教員を0にする。	70%		B	今後も「学校における働き方改革プラン」に基づき、学校業務の適正化を図っていく。	B	教員の仕事量が多く、大変だと思いますががんばっていただきたい。体調管理には十分気を付けていただきたい。					
	児童が自ら進んで挨拶できるようにする指導の充実	地域と連携した「あいさつ標語コンクール」に取り組み、意識を高める。 日頃から教職員が率先して挨拶を行い範を示すことで児童の意識を高める。	あいさつ標語の作成に、全ての児童が参加する。 児童アンケートで、「すすんで挨拶をすることができた」という肯定的な回答率を80%以上にする。	75%		B	全児童が「あいさつ標語コンクール」に参加した。日頃からあいさつへの意識が高まる取り組みを行っている。	B	街中であいさつしてくれる機会が多かった。「あいさつ標語」では、子どもたち視線の標語を楽しむにしている。あいさつへのハードルが低くなることを願っている。					
	ふき農園での栽培活動	3・4年生が農園での栽培活動を通して豊かな心を育むとともに、地域の方々の繋がりに感謝する。	ふき農園での栽培活動等を通して、「栽培や収穫の喜び」や「お世話になった地域の皆様への感謝」を感じたという感想をもった児童90%以上	85%		B	秋の収穫に向けて継続して準備を進めている。児童は悪天候でも学校の活動に協力してくださる地域の方々への感謝の気持ちをもちている。	B	自分たちの手で収穫する喜びと、地域の方への感謝の気持ちを育むことができるふき農園の活動はとても素晴らしい活動だと思う。					